会議録

会議の名称	令和4年度第3回西東京市地域福祉計画策定･普及推進委員会
開催日時	令和5年2月17日(金) 19時00分～20時10分
開催場所	田無庁舎5階502・503会議室
出席者	伊藤委員(副委員長)　南委員　米本委員 小倉委員　新野委員 篠宮委員　佐藤委員 小口委員　中岡委員
欠席者	熊田委員(委員長)、山﨑委員、中野委員
議題	(1)市民意識調査の中間報告等について (2)その他
会議資料の名称	次第 資料1　市民意識調査等中間報告書 資料2　子ども･若者向け調査中間報告書 資料3　地区懇談会中間報告書 前回会議録
記録方法	□全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 □会議内容の要点記録

会議内容

■開会

■議題

傍聴希望者なし。

■議題(1)市民意識調査の中間報告等について

事務局から、資料を基に説明。

【主な意見】

○副委員長

アンケートと懇談会の内容を説明いただいた。全体を通して感想あるいはもう少しここを丁寧に説明してほしいなどがあればお願いする。

○委員

調査報告を短時間でよくまとめていただいた。家族類型の二世代の場合、子どもの年齢によって傾向は異なるであろう。それが交通や買い物の不便さとリンクしている４圏域の中でも駅に接している地区と離れた地区では交通の不便さは異なるであろう。分析ではこうした点も意識してほしい。また、調査結果にどのくらいバイアス（偏り）がかかっているかが気になる。インターネットの２回入力はできないが、一人が紙とインターネット両

方で回答できたり、違う端末から回答できたりする点に留意が必要である。回答にインターネットの回答割合を示せるとよい。

●コンサル

一人が同じ端末からは回答できないが、違う端末からは回答できる。調査で子どもの年齢は把握できないが、回答者の年齢では想定することができると考えている。設問によって町名単位、圏域単位の分析を検討する。

○委員

地域によって居住形態は違う。市の既存データと比較できるとなおよい。分析は自分の興味の部分もあるため、作業時間とのバランスの中で可能な範囲で検討してほしい。

●事務局

調査結果から傾向が鮮明にみえるよう、コンサルと調整して進める。

○副委員長

地区懇談会に参加した。分析の際、懇談会とアンケートで同様の意見がでている点もみて欲しい。一方、次期計画に向けて調査結果や意見をどう生かすかが課題であるので、その点を意識してまとめていきたい。

○委員

２つある。市民と小・中・高校生対象の 2 つの調査で母数に対するサンプル数の比率は揃えていないのか。子どもは 1 クラスと絞り込んだサンプルであり、大学生は福祉に関心のある人のサンプル調査となっている。一般の大学生の結果がわかるとよい。

●コンサル

市民調査は性別と年齢比率に合わせたサンプル数だが、子ども調査は学年 1 クラスで実施しており、母数に対するサンプル数の比率は揃えていない。大学生の調査はイベントに参加した学生を対象にしたものであり、市外の学生も含まれている。

●事務局

食料イベントに来場した大学生を対象とした調査である。

○委員

来場した大学生が対象であるなら、一定のバイアス（偏り）がかかっていると想定される。小・中・高校生調査は配布した地区がわかるのか。

●コンサル

全ての小・中学校に配付している。地区の分析ができるかは回収数をみて検討する。

○委員

懇談会に参加した。そこでは自治会がないという意見が多い印象を受けた。東京消防庁の世論調査で防災訓練に参加していないは 71.9%、市民調査の問 25 防災訓練に参加して

いないが 88.4%であり、市の方がやや多い。消防署として「問 19 町内会の参加」と「問 25 防災訓練の参加」のクロス集計が気になっている。

●コンサル
　クロス集計はお示しできる。

○委員
　消防署としても町会単位ではない防災訓練の実施方法があるかもしれない。

○委員
　防犯、防災への関心は高い。

○委員
　アンケートをみると、社会福祉協議会の事業の認知度が上がっていない。市民調査の問 24 の福祉に係るボランティア活動への参加意向が低い結果や、問 20 の参加しやすい地域活動の割合との差が大きいことから、福祉に関して重いイメージをもっているようにみてとれる。気軽にできるボランティアから福祉のボランティアにつなげる工夫を考えていきたい。また、地区懇談会に参加した際、自治会に加入していない方やつながりがないといった意見も多かった。できることから関わっていただけるきっかけづくりという形で計画に生かしたい。前回の計画策定に関わったが、今回は「道路が狭い」という意見はあまりなかった。インフラ整備が進んだが、ソフトの部分では遅れていると感じる。

○委員
　西部の第 2 回懇談会に参加した。つながりが弱い、ボランティアのなり手が少ないという意見は多かった。市民調査の問 10 の結果をみると、意識をもって地域をみている市民が多く、気づいているがどうしようもないという忸怩たる思いをしている方もいると感じた。

○委員
　市民調査の問 10 当事者支援の立場として、高齢者のひとり暮らし世帯を気にかけている割合が 25%という結果を心強く感じた。ひきこもり、ヤングケアラーも含め、どういう世代がみているのかを分析したい。市民調査の問 32 の相談窓口の利用方法も世代ごとの傾向を分析し、今後の取組を検討したい。

○委員
　ボランティアへの意向も年齢が関係してくると思う。地域のつながりへの意識はみなさん持っていると思う。

○副委員長
　今後、全設問で年齢別のクロス集計をかける予定である。

○委員
　実は同じ時期に市から３種類のアンケートが届いた。東日本大震災の時も大学などから

山のようにアンケートが市民に届いた。時期が重なると回答も大変になる。回答率が上がらない原因にもなるので、少し調整や工夫をするように考えてほしい。

●事務局

地区や年齢が偏らないようにしている。子どものアンケートは児童に負担のならないように調整している。庁内の連絡会議で共有していく。

○委員

懇談会に参加した。ヤングケアラーのアンケートをしてはどうかという意見もあった。今回は大学生調査では聞いているが、小・中学生調査で聞いていない点は残念である。

○委員

小・中学校のヤングケアラーは教育委員会でもクローズアップされており、今後は重要なことと認識している。

○委員

ヤングケアラーについて、3 日間、学校に来ない子どもには先生が必ず様子を見に行くようにしている。学校に相談がこないし、深く原因を探らないとなかなかわからない。民生委員・児童委員活動として学期ごとに学校を訪問して状況を把握し、なかなか学校に来れない子どもを民生委員で見守るようにしている。民生委員・児童委員アンケートは一斉改選で辞めた人がアンケートに答えていないと思う。

○委員

放課後子ども支援をしているとヤングケアラーは問題になる。小・中学生は義務教育を受けることができなくなり、影響が大きいため、計画に取り上げるテーマであると考えている。

■議題(2)その他

●事務局から事務連絡

■閉会